

第9回青森県民駅伝競走大会レースの概要

第9回青森県民駅伝競走大会が9月2日（日）、青森市で行われ、県内67市町村の代表選手が郷土の誇りをかけ、青函メモリアルシップ八甲田丸前から県総合運動公園陸上競技場までの10区間・42.195キロをタスキでつないだ。

午前10時から県総合運動公園体育館で開会式が行われ、前大会町の部優勝の東北町を代表して下田慎吾選手（東北中3年）が「心を一つにタスキをつなぎ、最後までゴールを目指して走り抜きます」と力強い宣誓を行った。

選手の第1次点呼を行い、各中継所へ送り出そうという頃、秋の空はいたずらに一時的に激しい雨をもたらし、大会関係者をやきもきさせたが、レース直前に雨が上がると今度は打って変わって夏のような日差しも照らしはじめた。

大会長・木村守男知事の号砲が青森港に響くと、67本の黄緑色のタスキが一斉に青森の秋風になびいた。

序盤第1区（八甲田丸前～フェリターミナルノ一般男子・高校男子）では、昨年、一昨年この区間を制している三戸町・中山広光選手（三戸町役場）に続き、五戸町・戸賀澤和宏選手（陸上自衛隊八戸）、むつ市・船木和寿選手（青森大学大学院）、東北町・金田浩季選手（野辺地高2年）らが先頭集団を形成し白熱したレース展開のはじまりをうかがわせた。

第2区走者へタスキをつなぐ数百メートル手前では、やはり実績を誇る三戸町・中山選手が力強いラストスパートで後続を40メートルほど振り切った。

第2区（フェリターミナル～本町3丁目ノ中学生男子）では、1位でタスキを受けた三戸町・百沢悟選手（三戸中3年）を五戸町・村越徹選手（五戸中3年）、むつ市・田中亮太選手（関根中3年）、東北町・鶴ヶ崎知己選手（東北東中3年）らが追走し、後半のベイブリッジを下るあたりで五戸町・村越選手がトップの三戸町・百沢選手をとらえ、徐々に引き離しを図った。

第3区（本町3丁目～合浦公園ノ一般女子・高校女子・中学生女子）では、約20秒の間に五戸町、東北町、三沢市、むつ市の4チームがタスキをつなぎ、激しいトップ争いが続いた。

6回目の出場となった実力派の東北町・野田頭美穂選手（野辺地高3年）はトップでつないだ五戸町・種市春香選手（八戸西高1年）をすぐさまとらえると、一気に引き離し、後半には150メートル以上の差を広げ独走態勢を築いた。

また、むつ市・渡邊伯夏選手（大湊中1年）、八戸市・佐藤美郁選手（八戸工大二高2年）は順調に順位を上げていった。

過去にこの区間で区間賞を獲得している三沢市・富田恵里奈選手（青森山田高3年）は、20位でタスキをつないだ後、猛烈な追い上げで10人以上を追い抜き、堂々区間1位の記録と自己ベスト記録更新を遂げた。

第4区（合浦公園～野内ノ一般男子・高校男子）では、この大会9度目の出場となった東北町・山田秀逸選手（青森原燃テクノロジーセンター）は、後続を500メートルほど離し単独1位を保持し、また、むつ市・江村健太郎（順天堂大1年）は2位を走る八戸市・松倉隆選手（陸上自衛隊八戸）を追い抜き2位に浮上した。

また、この区間1位の記録をつくった大鰐町・水木圭選手（青森山田高2年）は、7位から3位まで次々と順位を上げて上位争いに食い込んできた。

第5区（野内～諏訪沢ノ一般男子・高校男子）では、独走態勢となった東北町は、選手層の厚さを見せ、2位との差を縮めさせなかった。

また、2位、3位争いでは大鰐町・石郷倫史選手（青森山田高2年）が約10秒前につないだむつ市・金澤貴選手（むつ消防署）を4キロ付近で追い抜き2位に浮上するなど熾烈なレースを展開した。

第6区（諏訪沢～戸山団地ノ一般男子・高校男子）では、トップに行く東北町が2位とのタイム差を56秒から後半23秒までつめられたが、かろうじてトップを守りきってつないだ。

前区間で逆転されたむつ市は、板垣陽介選手（海上自衛隊大湊）が大鰐町・植田善久選手（自営業）を巻き返し、再び2位に躍り出た。

中里町・伊藤達哉選手（北斗高3年）は、この区間を大会新記録で飾る力走で総合48位から37位へ、また、区間2位の田子町・森崎進也選手（農業）も総合27位から20位へ一気に順位を上げてきた。

第7区（戸山団地～幸畑ノ一般女子・高校女子・中学生女子）では、県中学校女子ナンバー1の東北町・土橋真弓選手（東北東中3年）が1位でタスキを受けると、落ち着いた走りでも淡々と次の中継地点を目指した。

3位で引き継いだ大鰐町・築館みどり選手（玉川大3年）は、約20秒差で前を走るむつ市・對馬悠里選手（むつ中1年）を区間トップのタイムで追い抜き、さらにトップをねらうがなかなか差を縮めることができなかった。

第8区(幸畑～流通団地ノ一般男子・高校男子)では、依然トップの東北町、これを21秒差で追う大鰐町、ついで初の市の部優勝をかけるむつ市が2位との差1分8秒で追い、後半での逆転劇もあり得る展開となった。

3位のむつ市・柳田剛選手(海上自衛隊大湊)は、この区間1位の記録をつくる好走で前を走る大鰐町・高杉修一選手(弘前実業高3年)との差を20秒ほどにつめたが、簡単には先を譲ることはなかった。

また、村の部では南郷村・門前寿也選手(光星学院高3年)が区間賞を獲得する大健闘で1位の森田村との差をぐんぐんとつめていた。

第9区(流通団地～細越ノ40歳以上男子)では、東北町・久保田一生選手(県環境保健センター六ヶ所)が終始安定した走りで最終10区のランナーへ思いをつないだ。

また、入れ替わりに総合2位の座を争ってきた大鰐町とむつ市の両者だったが、ここでも混戦模様を見せた。

また、村の部で念願の1位をねらう森田村だったが、南郷村・大畑修一選手(榊みちのく松善)、六ヶ所村・橋本勝夫選手(六ヶ所村教育委員会)の猛烈な追い込みに逆転を許した。

第10区(細越～県陸上競技場ノ中学生男子)では、東北町・鶴ヶ崎功選手(東北東中2年)が初出場ながら自信たっぷりとさえうかがえるリラックスした走りを見せ、27秒あった2位との差を最後は1分以上広げてゴールした。

3位でタスキをつないだ大鰐町・葛西隆日選手(大鰐中3年)は、むつ市・櫛部泰明選手(大平中3年)を追い抜き、ようやく総合2位争いに決着をつけた。

総合4位、5位争いも黒石市・木立佑紀選手(六郷中3年)と三沢市・中村公宣選手(堀口中3年)とで陸上競技場のゴール寸前までデッドヒートを繰り広げ三沢市がそれを制した。

最終的に市の部では、むつ市が中盤以降、圧倒的な走りを見せ、9度目の挑戦で念願の初優勝を飾ったほか、三沢市も強豪八戸市や安定した力をつけてきた黒石市を振り切り、大健闘の2位に輝いた。また、昨年まで4連覇していた青森市は7位という結果に終わった。

町の部では、3区でトップに立った東北町が実力を遺憾なく発揮し終盤まで安定したレース展開で堂々の7連覇(総合成績では4年ぶりの第1位)を達成した。また、2位の大鰐町もわずかながらそれには及ばなかったものの、総合成績では過去最高の2位に入賞したほか、昨年4位の五戸町が3位と順位を一つ上げるなどの健闘を見せた。

村の部では、最終10区1位でタスキを受けた南郷村の横町祐司選手（田代中3年）が六ヶ所村の橋本彬史選手（六ヶ所第二中3年）に追い上げられたが、最後まできっちりリードを守りきり、昨年に引き続き2連覇を成し遂げた。

六ヶ所村は惜しくも2位、森田村も念願の初優勝を目前に逆転され3位に終わったが、8区まで南郷村、六ヶ所村を押さえて1位をキープした成績は見事だった。